

「エコエイジ」ブランド立ち上げる

王子製紙は、地球環境と共存しながら紙をつくり続けるというコンセプトのもと、「エコエイジ」ブランドを立ち上げた。従来同社は、古紙を活用し「紙のリサイクル」に対応した「エコグリーンシリーズ」と、環境に配慮したフレッシュ

パルプを使用し「森のリサイクル」に対応した「エコフォレストシリーズ」を製品として持っていたが、新たに「紙のリサイクル」と「森のリサイクル」を融合させた「エコハーモニーシリーズ」を製品ラインアップに加え、これらを総称し

たのが「エコエイジ」ブランドである。様々な環境対応紙の種類を増やすことに加え、同社調査では二〇一五年には二〇〇五年対比九千四百万ト増え、四億六千六千トになる。この需要に対応するため、製紙各社・チツプサプライヤーは植林を拡大しているが、二〇一五年には約五百万ト分の植林が不足するという。このよ

うな資源状況で古紙の利用が減ると、ますます森林資源の減少の危険性が高まることになる。言い換えれば、古紙を最大限利用することで森林資源が節約でき、森林によるCO₂固定が促進され、地球温暖化抑制に寄与することとなる。また、「古紙一〇〇%の再生紙は古紙を配合している紙に比べ、製造工程で化石燃料由来のCO₂排出量が削減される」と、古紙一〇〇%製品における化石燃料の使用率を高め、製造工程で削減しているが、二〇一五年には約五百万ト分の植林が不足するという。このよ



2010年度には30万ヘクタールの植林面積を目標としている（同社が植林した森）

「地球環境と共存」へ

環境対応紙の種類を充実

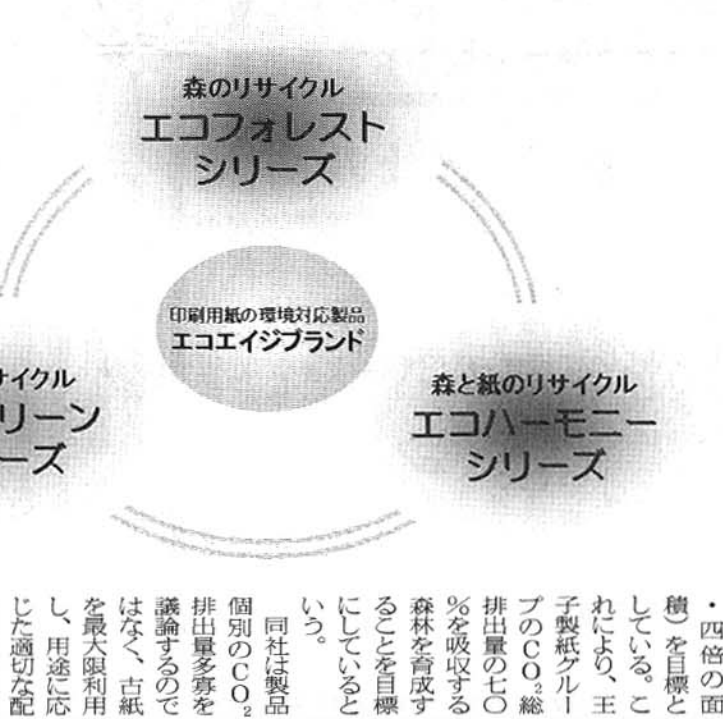
王子製紙は、地球環境と共存しながら紙をつくり続けるというコンセプトのもと、「エコエイジ」ブランドを立ち上げた。従来同社は、古紙を活用し「紙のリサイクル」に対応した「エコグリーンシリーズ」と、環境に配慮したフレッシュ

たのが「エコエイジ」ブランドである。様々な環境対応紙の種類を増やすことに加え、同社調査では二〇一五年には二〇〇五年対比九千四百万ト増え、四億六千六千トになる。この需要に対応するため、製紙各社・チツプサプライヤーは植林を拡大しているが、二〇一五年には約五百万ト分の植林が不足するという。このよ

うな資源状況で古紙の利用が減ると、ますます森林資源の減少の危険性が高まることになる。言い換えれば、古紙を最大限利用することで森林資源が節約でき、森林によるCO₂固定が促進され、地球温暖化抑制に寄与することとなる。また、「古紙一〇〇%の再生紙は古紙を配合している紙に比べ、製造工程で化石燃料由来のCO₂排出量が削減される」と、古紙一〇〇%製品における化石燃料の使用率を高め、製造工程で削減しているが、二〇一五年には約五百万ト分の植林が不足するという。このよ

うな資源状況で古紙の利用が減ると、ますます森林資源の減少の危険性が高まることになる。言い換えれば、古紙を最大限利用することで森林資源が節約でき、森林によるCO₂固定が促進され、地球温暖化抑制に寄与することとなる。また、「古紙一〇〇%の再生紙は古紙を配合している紙に比べ、製造工程で化石燃料由来のCO₂排出量が削減される」と、古紙一〇〇%製品における化石燃料の使用率を高め、製造工程で削減しているが、二〇一五年には約五百万ト分の植林が不足するという。このよ

「エコエイジ」ブランド図



・四倍の面積を目標としている。これにより、王子製紙グループのCO₂総排出量の七〇%を吸収する森林を育成することを目標にしている。同社は製品別のCO₂排出量多寡を議論するのではなく、古紙を最大限利用し、用途に応じた適切な配合を行う一方で、非化石エネルギーへの転換や省エネルギー対策により全体としてCO₂発生を抑制し、排出したCO₂は植林により固定することで、環境に貢献していく姿勢を取っている。